

令和7年度第二くすの園第1回地域連携推進会議 議事録

- 1 日 時 令和7年12月10日(水) 午前10時～午前11時50分
- 2 場 所 指定障害者支援施設 第二くすの園会議室
- 3 定 数 5名
- 4 出席者数 8名
- 5 出席者名 **【地域連携推進員5名】**
林 茂樹 (利用者)
沖村 能江 (利用者の家族)
三浦 徹 (地域の関係者：自治会長)
寺尾 文彦 (福祉に知見のある方：障害児通所支援事業所
サービス管理責任者)
清家 虎太郎 (経営に知見のある方：障害者支援施設理事長兼
施設長)
【事務局：施設職員3名】
新谷 恵 (施設長)
中野 裕紀子 (課長)
原田 優樹 (生活支援員)

6 会議次第

(1) 開会

- ① 配布資料の確認
- ② 会議日程の説明

(2) 自己紹介

(3) 園内案内

(4) 地域連携推進会議について説明

- ① 会議設置の趣旨・目的・役割等
- ② 第二くすの園の施設概要等

(5) 意見交換及び質疑等

(6) 閉会

7 意見交換・質疑等

清家推進員：利用者の帰省は自由にされているのか。

私の勤務する施設では、コロナ禍以降は、予約制の面会であったり、ゴールデンウィーク期間中など期間を定めて帰省の許可をしている。施設は4人部屋が主体でコロナが蔓延し大変な思いをした。

事務局：授産施設の時代は、週末帰省（土曜日の昼食後帰省、月曜日登園の2泊）が主だったが、現在では、各家庭の状況に合わせて平日1泊帰省であったり、泊を伴わない日中外出だけもある。

三浦推進員：介護（福祉）施設等での殺人事件など悲惨な事件が起きているが、

低賃金や人員不足が原因の一つではないかと思う。現場の職員が誇りをもって仕事ができるように賃金体制や人員体制を整備しなければならないと思うがどうか。

事務局：人員配置については、国の定めた基準に則って配置しており、第二くすの園においてもこの基準を満たしている。また、福祉サービス事業所等の職員給与が他の一般企業の職員と比べて低いということは承知している。国においては、一般企業との賃金の乖離や物価高への対策として、13兆円を超える一般会社の補正予算や2027年度の報酬改定を来年6月に前倒しして実施すると聞いている。職員が誇りをもって働けるよう職員の賃金の改善についても対応していかなければならないと考えている。

寺尾推進員：お金のことをいえば限りがないけれど、「私たちこの仕事が好きよね」、「利用者が好きよね」、「お金より面白いものもあるよね」ということがきっとあると思う。AIの時代になっていくからこそ、逆にヒューマニズムで施設を魅力あるものにしていかなければならないと思う。

沖村推進員：親の立場からいうと、不謹慎かもしれないが、障害の子とずっと関わっていかなければならないので、どこにでも行ける状態でない。そうした中、施設があるから「自分のこともできる」、子供を預けることで「少し俯瞰して子供を見つめることもできる」、親亡き後も見てもらえる安心感があるので、保護者はみな感謝している。

三浦推進員：第二くすの園開園当初は、地域の大多数の人は障害者に対する知識が不足していたせいか快く思っていなかった。私が自治会長になって第二くすの園を借りて地域の集会を開くようになると施設のことでも理解でき、今ではそういうこともなくなった。一番大事なのは、地域の人に知ってもらうことだと思うが、第二くすの園も高齢化が進み催しもなくなり、地域との接点もなくなってきた。

事務局：仰るとおり私も今の第二くすの園の弱みは地域との繋がりが希薄なことだと思う。運動会が盛んな頃は地区の子供さんも来られ交流もできていたが、段々とそうした機会がなくなった。地域との交流とは少し違うかもしれないが、利用者に楽しんでもらうために、外部の方を招いてマジックや歌を唄ってもらっているが、いかにして地域の方を巻き込んだ交流をするかというのが今後の課題と思っている。

清家推進員：私が勤務する施設でもコロナ禍前は施設を開放した祭りをしていた。その頃は給食が自前でバザーも出していたが、今は給食を委託にしたこと、また、コロナ感染の怖さもあって現在は、保護者を対象とした催しに縮小した。

勝山文化振興会という団体に所属する子供のダンスサークルが

発表する機会が欲しいということもあり、お願いすると子供だけでなく保護者も来てくれるし、高校等のボランティア部に声掛けするところでも大勢参加してくれる。ただ、コロナ禍以降は保護者中心の内輪だけの祭りになってしまった。

事務局：第二くすの園は、敷地に余裕がなく、また、何か大きな催し物をしようとするに食堂と隣の訓練室のパーテーションを取外して使用する以外になくて、なかなか難しいところである。地域交流と言えるかどうかかわからないけれど、特別支援学校や施設などに音楽やマジックなど文化芸術活動をしている方を派遣してくれる“地域公演”という事業を公益財団法人下関市文化振興財団が実施しており、今年度は第二くすの園に打診があり、来年2月10日に実施する方向で調整をしているところである。

清家推進員：外部から来てもらうのもいいが、予算等のこともあり、これからは地域の行事等に出かけていくのはどうかという話になっている。

寺尾推進員：利用者が集まって「楽しいことがしたい」、「こんなこと、あんなことをしてみたい」といった発言しやすい雰囲気を作ることが大切と思う。

事務局：利用者自治会を毎月行っており、その中で行事の反省であったり、次は「こういうことをしたい」といった利用者の意見等を吸い上げて実現できるようにしている。

林さんは「何かしてみたいこと」、「こういうところに行きたい」というのがありますか？「こんなことで困ってる」でもいいですよ。

林推進員：もっとボランティアの人たちに来て欲しい。

事務局：今日は、市内の大学から実習生が来ており、午後からレクもある。

林推進員：ボランティアが来てくれるのが楽しみです。

事務局：また考えましょう。

清家推進員：夜勤者は一人と聞いたが、災害の時など一人では心細いと思うので遠慮なく連絡してもらって構わない。第二くすの園さんとは避難所の協定を結んだので避難訓練等も一緒にしてもいいと思うので、暖かくなったら考えてはどうか。避難経路や移動時間など現実的なところを確認すべきと思う。

事務局：夜勤者が一人というのは説明不足で、一般棟・男性棟・女性棟の3棟があり夜勤者は各棟1名の計3名となっている。

避難所協定は、第二くすの園の敷地の一部が土砂災害警戒区域の一部にかかっていることから、清家推進員さんが勤務する施設の「地域交流ホーム」を避難所として活用させてほしい旨をお願いし実現したもの。机上の空論で終わってはいけないので、時機を見て避難訓練の実施を考える。

寺尾推進員：避難所の協定は素晴らしいと思うが、消防や地域が連携して避難ルートなどは自治会と話をして回覧等で情報共有していると思う。

事務局：今第二くすの園では、利用者の居室を個室化するための工事に取り掛かっている。敷地の関係から人工地盤を設置するため、建物の一部が法面に張り出し、完成後は下駄を履いたように柱で支える人工地盤の上に建物を載せたように見える。

まだ園舎本体の工事には着手していないが、本格的に工事が始まると工事車両が入ってくると思われるので、地域への情報提供について検討する。

以上

令和7年12月10日

地域連携推進員（利用者）

林 茂 樹

地域連携推進員（利用者家族）

沖 村 能 江